

1.1 サンゴ類調査結果

1.1.1 調査結果概要

サンゴ類調査コードラート内調査結果の概要を表 1.1-1 に示し、コードラート内サンゴ類の総被度および種類数を図 1.1-1 に図示した。

表 1.1-1 調査結果概要(サンゴ類調査コードラート内調査結果)

	平南川河口		源河川河口		赤瀬海岸	
	013-No.2	013-No.3	035-No.1	035-No.3	039-No.2	039-No.3
サンゴ類の総被度	9%	3%	3%	1%	9%	18%
死サンゴ類の総被度	3%	1%未満	1%未満	1%未満	1%未満	1%
種類数	5	10	10	4	7	8
群体数	23	34	39	21	50	24
トリアイソ類の最大長径×短径	-	4×3(cm)	-	-	27×20(cm)	20×15(cm)
オニヒトデ個体数	0	0	0	0	0	0
シロレイシダマシ類個体数	0	0	1	0	0	0
主な出現種	ハマサンゴ属(塊状)	ハマサンゴ属(塊状)	トゲキクメイシ属(塊状)	トゲキクメイシ属(塊状)	アナサンゴモドキ属(被覆状)	アナサンゴモドキ属(被覆状)
	トゲキクメイシ属(塊状)	トゲキクメイシ属(塊状)	ハマサンゴ属(塊状)	ハマサンゴ属(塊状)	コモサンゴ属(樹枝状)	コモサンゴ属(被覆状)
		キクメイシモドキ(被覆・塊状)				

	平良川河口		漢那中港川河口		加武川河口	
	016-2(No.2)	016-3(No.3)	043-1(No.1)	043-No.3	048-No.2	048-No.3
サンゴ類の総被度	6%	1%	8%	0.2%	0.8%	4%
死サンゴ類の総被度	1%未満	1%未満	1%未満	1%未満	1%未満	1%未満
種類数	20	4	3	3	8	4
群体数	63	6	9	9	10	22
トリアイソ類の最大長径×短径	-	-	-	-	-	-
オニヒトデ個体数	0	0	0	0	0	0
シロレイシダマシ類個体数	0	0	0	0	0	0
主な出現種	ユビエダハマサンゴ(樹枝状)	ハマサンゴ属(塊状)	カメノキクメイシ(塊状)	ハマサンゴ属(塊状)	ルリサンゴ属(塊状)	ハマサンゴ属(塊状)
		カメノキクメイシ属(塊状)		アマサンゴ(塊状)	ハラハットサンゴ(塊状)	ルリサンゴ属(塊状)
		トゲキクメイシ属(塊状)			ウスチャキクメイシ(塊状)	
		コモサンゴ属(被覆状)				

	石川川(うるま市)河口		アージ島海域		大度海岸	
	055-No.2	055-No.3	068-No.2	068-No.3	066-No.1	066-No.2
サンゴ類の総被度	3%	19%	0.1%	37%	0.3%	36%
死サンゴ類の総被度	1%未満	1%未満	1%未満	1%未満	1%未満	4%
種類数	2	10	1	2	5	9
群体数	2	39	6	12	13	16
トリアイソ類の最大長径×短径	-	-	-	-	-	-
オニヒトデ個体数	0	0	0	0	0	0
シロレイシダマシ類個体数	0	0	0	0	0	0
主な出現種	ハマサンゴ属(塊状)	ハマサンゴ属(塊状)	コブハマサンゴ(塊状)	コブハマサンゴ(塊状)	ハマサンゴ属(塊状)	ハマサンゴ属(塊状)
	ゴカキクメイシ(塊状)	アナサンゴ属(塊状)			ハリカメノキクメイシ(塊状)	エダコモサンゴ(樹枝状)
						トゲコモサンゴ(樹枝状)
						コモサンゴ属(樹枝状)

	白保海域			宮良川河口	阿嘉島海域	
	095-No.1	095-No.2	095-No.3	094-2(No.2)	110-No.1	110-No.2
サンゴ類の総被度	7%	8%	36%	14%	70%	3%
死サンゴ類の総被度	1%未満	1%未満	1%	1%未満	3%	1%未満
種類数	17	7	18	12	8	11
群体数	71	32	62	33	27	32
トリアイソ類の最大長径×短径	12×8(cm)	-	70×50(cm)	3×3(cm)	-	5×5(cm)
オニヒトデ個体数	0	0	0	0	0	0
シロレイシダマシ類個体数	0	0	0	0	0	0
主な出現種	コモサンゴ属(樹枝状)	ハマサンゴ属(塊状)	スキノキトリアイソ(樹枝状)	アラルサンゴ(塊状)	ユビエダハマサンゴ(樹枝状)	アナサンゴモドキ属(樹枝状)
	ユビエダハマサンゴ(樹枝状)	カメノキクメイシ属(塊状)	コノシロサンゴ(葉状)	ハマサンゴ属(塊状)		ハラオハマサンゴ(塊状)
			ユビエダハマサンゴ(樹枝状)			

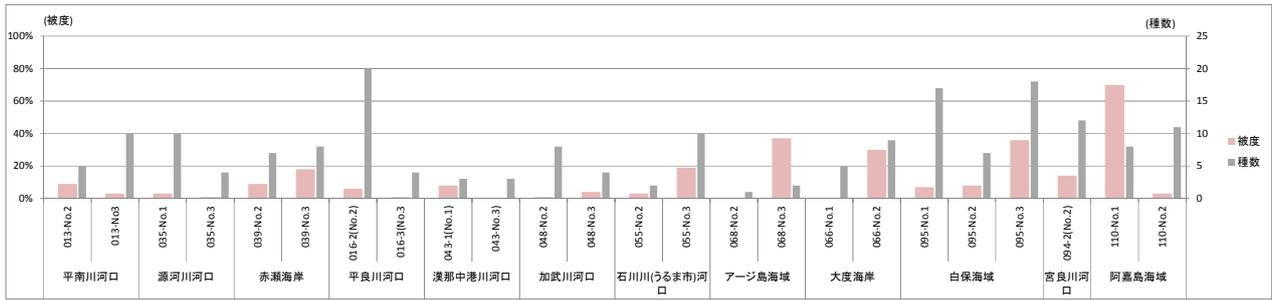


図 1.1-1 コドラート内被度および種数

サンゴ被度は、0.1%から 70%まで確認された。被度が最も低かった地点は、アージ島海域(068-No.2)であり、被度が最も高かった地点は、阿嘉島海域(110-No.1)であった。

サンゴ種数は、1 から 20 種まで様々で、種数が最も低かった地点は、サンゴ被度と同じくアージ島海域(068-No.2)であり、種数が最も多かった地点は、平良川河口(016-2(No.2))であった。

1.1.2 過年度との比較

(1) 昨年度との比較

平成 23 年度と今年度のコドラート内サンゴ被度の比較を図 1.1-2 に示した。

殆どの地点で被度は、横ばいか増加であり、昨年度から今年度にかけて、赤土等の影響も含め、特にサンゴ類の生息状況に影響が及んだと考えられる地点は確認されなかった。なお、平南川河口(013-No.2)と大度海岸(066-No.2)においては、若干の被度の減少がみられたが、これは既存群体の(死滅ではなく)消失によるものである。

また、白保海域(095-No.3)においては、被度が大きく増加し、健全なサンゴ礁であることが窺えた。

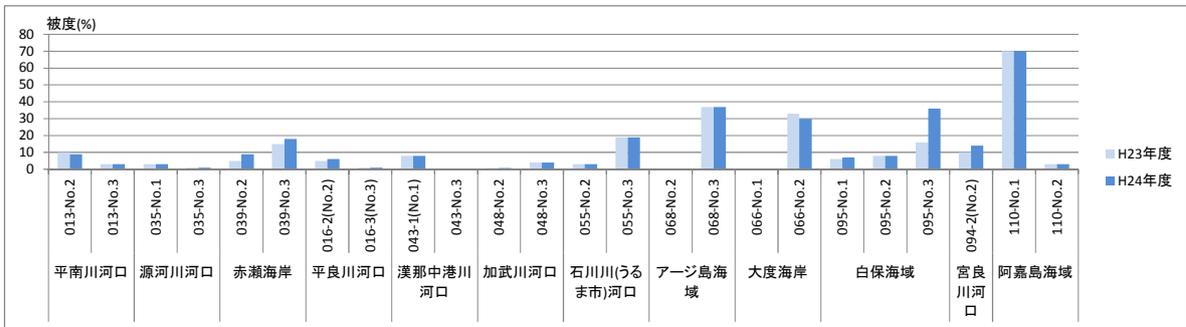


図 1.1-2 平成 23 年度と今年度のコドラート内サンゴ被度の比較

(2) 経年比較

本業務を開始した平成 7 年度以降のサンゴ類被度の経年変化状況(全調査地点平均)を図 1.1-3 に示した。大規模な白化現象が確認された平成 10 年から 11 年にかけて、被度が急激に減少した。さらに平成 18 年、19 年度、阿嘉島海域 No.2 でのオニヒトデの食害によるミドリイシ属の死滅、白保 No.1、大度海域 No.2 での原因不明のコモンサンゴ属の死滅、白保 No.3 での台風によると思われる方形枰基盤の崩壊などにより被度がさらに減少した。平成 20 年度以降は、若干の増加傾向が確認されている。

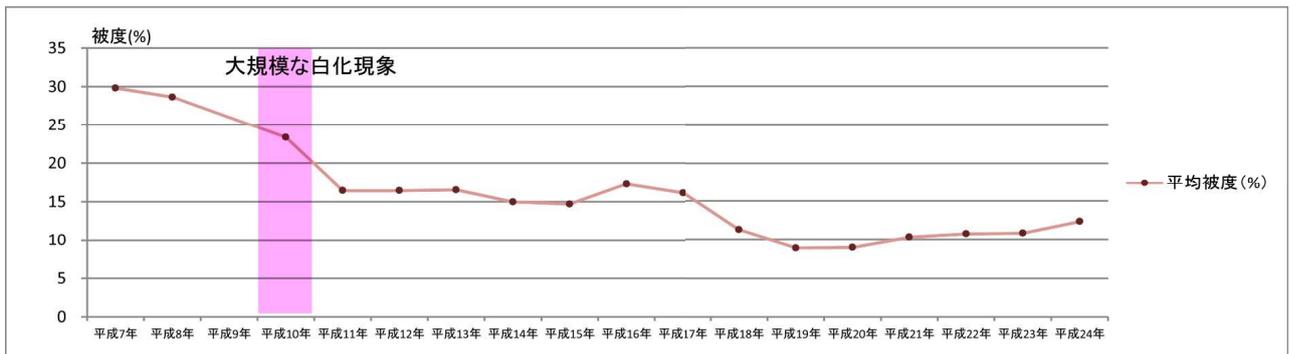


図 1.1-3 経年におけるサンゴ被度の比較(全調査地点平均)